

令和2年度 兵庫県立有馬高等学校 学校評価 (自己評価)

十分にできた 4    できた 3    できていない 2    見直しが必要 1

年度努力事項		(1)主体的・対話的で深い学びの実現	
目標		①知識・技能の習得を通して、生徒が自ら主体的・対話的に仲間と協力しながら、課題を解決していこうとする積極性を醸成する。 ②生徒の実態やニーズを踏まえた教育課程の編成及び運用の創意工夫に取り組み、生徒一人一人の夢を実現する魅力ある学校づくりを推進する。	
担当	取り組みとその成果 ②をいれています	成果と課題	評価
総合学科	生徒の進路目標や興味関心に応じた科目選択ができるように教育課程の編成に携わり、外部講師や体験的授業を効果的に取り入れ生徒の将来の目標の達成につなげる。	コロナ禍ではあったが、1年次の「産業社会と人間」の授業では、プロフェッショナルin有馬(職業人インタビュー)を無事行うことができ、進路や働くことについて深く考える機会となった。また今年度よりスピーチ講座に大学から講師を招き、今後も高大連携の一環としたい。2年次の「総合的な探究の時間」では今年度より生徒一人一人がパソコンを使用し、全員がパワーポイントを使って発表した。「課題研究」への基礎を固める授業として定着しつつある。その成果が3年次の「課題研究発表会」にもよく表れていた。	4
農業	有馬高校人と自然科でしか学ぶことのできない「人と自然」「ナチュラルキープ」「地域自然保護」などの学校設定科目をさらに充実させ、生徒の進路実現につなげる。	「人と自然」ではコロナ渦の中でも、ひとはく連携セミナーを年間6回実施し、大きな学習成果を得た。また「地域自然保護」では、これまでの取り組みが評価され、有馬高校の令和2年度グリーンスクール知事表彰受賞につなげることができた。活動の継続が今後の課題である。	4
教務	生徒の興味関心に応じた魅力ある選択授業や、生徒の到達度や進路希望に合わせた習熟度別や少人数の授業を数多く展開する。	・令和3年度入学生の教育課程について、2つの学科それぞれの特色に基づき、進路実現や魅力のある科目の選択を可能にした教育課程を検討した。人と自然科については、英語科について基礎基本の定着と応用力の育成、多様な進路目標への対応を図り、科目の変更・配置の変更を行った。 ・令和3年度開講科目については、現状の生徒・職員の定数も勘案しながら、興味関心に応じた選択授業や少人数授業など、できる限り多くの講座が開講できるよう考えた。	4
進路指導	進路希望調査、進路相談、進路講座の振り返り、学習状況分析などを行い、それらの結果を教員間で共有し、多面的に進路アドバイスや科目選択アドバイスを実施	進路相談については、休校期間中においてもオンライン相談窓口を開設し、多くの案件に対応し、その内容を学年団と共有した。進路講座の振り返りや進路希望調査、学習状況分析を行い、分科会や職員会議で結果を報告した。分析結果を踏まえた多面的な指導の実施において、他部署との連携強化が課題。	4
総務・広報	人権・国際理解・防災等の教育活動や芸術鑑賞会等の行事を、特別教育活動の中で適切に実施する。	コロナ禍でリモートでの交流・放送での開催等実施形態の変更を余儀なくされた行事もあったが、適切に実施できた。次年度以降、関係部署との連携の強化が課題。	3
保健・相談	専門家による講演会を実施し、注意すべき健康問題を知り生徒自身が危険を予測し、正しく安全な行動がとれるようにする。	新型コロナウイルス感染症対策のため、本年度は年度当初の計画どおり実施することができなかった。1・2年生対象の講演会は後期に再計画し実施した(1年生性教育講演会(12月)・2年薬物乱用防止講演会(12月))・運動部を中心とした部活動生徒対象の熱中症講演会(7月)は中止した。	4
生徒指導	生徒情報交換会などで、生徒の実態把握をするとともに、挨拶や時間厳守、マナーなど規律ある行動ができるようにする。	生徒の情報交換では、発展的取り組みをするまでに至ることがなかった	2
1年	年間を通して補習や学習会を実施し学力の向上を目指す。また成績不審者に対しては補充・特別課題等により学習意欲を喚起する。	夏休み補習、冬休み補習、平常補習(年間)を行い、発展的な学力を身につけさせた。定期考査前には質問会・補充を行い、理解を深め学習意欲の喚起を図ることができた。	4
2年	進路実現に向け、具体手な目標を立てる支援を行う。	進路別ガイダンスを実施し、自己の進路について考えることができた。次年度の選択科目を確認し、受験科目について考えることができた。	4
3年	生徒の希望する進路に応じたガイダンスの実施や、積極的な面談を実施する。	進路別のガイダンスを積極的に実施するなど生徒の多様な進路実現に対応した。コロナの影響で方針が変わる中、進路指導部とタイアップし、取り組むことが出来た。	4

年度努力事項	<b>(2)すべての教育活動を通じた「こころ豊かで自立する人づくり」の推進</b>
目標	①特色学科の利点を生かした教育活動を推進し、夢や志を抱き自らの未来への道を切り拓く力を育てると共に、自己表現を目指した 生き方・在り方を考えるキャリア教育を充実する。 ②人間的なふれあいに基づいた教育活動を推進し、社会性や自主性・自立性の育成に努める。 ③国際理解教育や個性を尊重する多様で柔軟な教育を推進し、命や人権を大切にシグローバルな視野を備えた、ともに生きる社会づくりに貢献できる人材を育成する。

担当	具体的取り組み(計画) ②をいれています	成果と課題	評価
総合学科	コミュニケーショントレーニングやインタビュー活動の実践、各種発表会の実施を通して、主体性や協働性を育む。	コロナ禍ではあったが、衛生面に注意し、コミュニケーショントレーニングやインタビュー実践、各学年の発表会、小高連携授業や施設訪問等を実施することができた。発表会は生徒主体の運営で、各クラスや講座の代表が1年間の成長を見せてくれた。コロナ禍での安全なグループ活動やコミュニケーション活動のノウハウを身に付けることが課題である。	4
農業	授業で学んだ知識や技術、そして自ら栽培した農産物などを活用し、福祉施設の花壇装飾交流や田植え稲刈り交流などを企画、実施し社会性を向上させる。	コロナ禍の中でも、まちなみガーデンショーなどイベントでの作庭、市役所花時計や消防署など公共施設花壇装飾を行い、地域に学びを還元できた。また、秋の農業祭も万全の対策を行い、実施することができた。コロナ禍での安全な活動が課題である。	4
教務	学習環境の整備・授業規律等の目線を合わせて指導する。「有高手帳」を活用し、学習計画や課題内容、提出物の期日確認など、自己管理ができるように働きかける。	・会議や打ち合わせ等で教務上の確認事項等の共通理解を深め、学校全体で学習環境や授業規律を意識した上での学習指導を行った。 ・有高手帳を全校生徒が持ち、学習計画や提出物の確認などを各自のスケジュール管理をおこなった。学習支援ツールClassiを通じて呼びかけ、Webによる効果アンケートを実施したが、授業再開後、生徒のアクセスが減っており回答が得られない生徒が多かった。	3
進路指導	インターンシップ、看護医療現場体験、オープンキャンパス、企業見学などへの参加を学年と協力して推進し、校外での体験を通して、社会性や自主性・自立性の育成を図る。	総じて校外への体験を控える1年となった。その中でも、可能な範囲で企業見学を実施したり、年間計画外に急遽進学イベントへのバスツアーを実施したり、オンラインオープンキャンパスへの参加をアシストしたりするなど、対応した。コロナ禍の収拾またはオンライン活動を推進するための設備やマンパワーの不足が課題。	2
総務・広報	人権HRや校内避難訓練、それに伴う講演会や常置委員会活動(図書委員会・清掃委員会)などを適切に実施する。	常置委員会活動は役員を中心に適切に計画・実施できた。 人権HR・避難訓練・講演会などは方法を工夫しながら実施。次年度以降、実施形態によらない質の維持が課題。	3
保健・相談	職員カウンセリングマインド研修会を実施し、生徒の心の健康に目を向け、不適応生徒の早期把握につとめ職員の資質の向上に努める。	職員カウンセリングマインド研修会を2回実施した。効果的な個人面談の方法と漫談内容の工夫(8月)虐待の発見と対応について(12月)年間27回のキャンパスカウンセラー事業を実施した。生徒や保護者への教育相談活動を実施し、校内における教育相談活動の充実を図った。	4
生徒指導	生徒会・育友会・常置委員会・定時制などとの交流を計画的に実施し、ブログにあげる。	コロナ禍でできないことが多く今後の学校行事運営に不安が残る。 コロナ対策における食堂の配置、啓発活動等を生徒会・常置委員会を中心に取り組んだ。「ちっちゃな芸術祭」を生徒会中心に取り組み小規模であったが、生徒自らが動くということが率先してできた。	3
1年	あいさつ・清掃活動・集団生活に必要なルールの順守等の基本的な生活習慣を身につけさせ、責任ある行動がとれるようにする。	あいさつの励行、清掃活動の実施、時間厳守等の集団生活上のルールの遵守を指導した。基本的な生活習慣がおおむね定着したと思われる。	3
2年	周囲に目を配り、常に美しい環境づくりに励ませる。	清掃活動に意欲的に取り組むことはできた。コロナ禍で周囲に気を遣う行動について、ソーシャルディスタンスの徹底ができていなかった。	3
3年	早朝・放課後や長期休業中に補習を実施する。アドバンスクラスに限らず多くの生徒に対して補習の機会を増やし、進路実現に結びつける。	教科ごとの早朝・放課後補習の実施や、夏休みの補習等受験に対応した補習に取り組むことが出来た。進路実現につながった	4

年度努力事項	<b>(3)地域に信頼される学校づくりの推進</b>
目標	①情報を積極的に提供することで学校としての説明責任を果たし、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。 ②保護者との共通理解を図り、家庭と学校との連携を密にし、生徒一人ひとりの成長を支援する。 ③勤務の適正化を通して職員の働き方改革を推し進め、関わる全ての者にとって風通しの良い環境づくりを推進する。

担当	具体的取り組み(計画)	成果と課題	評価
総合学科	授業や各種発表会の公開、科目選択の説明会等を通して、保護者との共通理解を図るとともに生徒の成長を見守る機会を確保する。	今年度はコロナ禍のため、授業や発表会の公開は控えたが、定期的にブログを上げ、授業の様子を発信した。また、科目選択の説明会は実施することができ、保護者と共通理解を図る機会とすることができた。継続的な発信が課題である。	4
農業	特色ある学びや資格取得など、人と自然科の強みを卒業時の進路実現に活かすため担任(学年)に加え農業部職員も電話相談や保護者面談などで積極的に家庭と情報交換を行う。	コロナ禍で年度前半に資格講習や検定が中止となる中、年度後半に積極的な指導、働きかけを行い、資格検定取得数153件(前年比123%)となった。これらの活かした進路指導の結果、農業系の学校に進学する生徒が前年より4名増え10名となった。3学年と農業部との連携に課題が残った。	3
教務	生徒の学習活動・学習成果について、教科・学年・専門部と連携しながら保護者との共通理解を図り、学校生活の充実と進路実現ができるよう支援する。	・教科・学年・専門部と連携しながら生徒の学習評価や科目の選択などについて、生徒・保護者と連絡を密にし共通理解を図っていくことができた。 ・生徒への学習支援・外部への発信として学習支援ツールClassiやホームページ「学びの扉」の活用が開始できた。今後に向けて継続的・効果的に活用していく方法を検討していく必要がある。	3
進路指導	保護者向け進学・就職説明会を実施したり、生徒向け進路講演会への保護者の参加を案内したりし、進路に対する保護者との共通理解に努める。	コロナ禍の中、生徒向け進学講演会への保護者案内は実現しなかったが、開催時期、方法を検討し、進学説明会、就職説明会を実施することができた。来年度は、生徒向けの会への保護者の参加を実現したい。	3
総務・広報	育友会主催行事への職員出席や、学校主催行事への育友会・清陵会役員の協力等や、育友会報やクラブ後援会報の発刊などを関係機関と連携して適切に実施する。	会報発行は、育友会・清陵会の協力もと予定通り実施。人的交流については必要最小限にとどまった。次年度以降、人的交流の機会・方法の精選・工夫が課題。	3
保健・相談	健康診断後の事後措置として受診を指示された生徒について、保護者との連絡を密にして受診率の向上に努め病気予防の意識を高める。	新型コロナウイルス感染症対策のため、前期、健康診断は計画通りには実施できなかったことにより、夏季休業中期間を利用した健康診断後の事後処置としての再受診の指導が効果的に実施できなかった。後期に実施した健康診断の結果により、改めて保護者との連絡を密にして、再受診生徒の受診率の向上に努めた。	4
生徒指導	生徒会目安箱の生徒の情報を有効に活用し、HP・ブログを通して共通理解を図る。	防寒着の着用方法など各自が理解し、保護者に伝えるという行動できるように機会を作り、個々の保護者からの問い合わせは減少した。	3
1年	保護者会や三者面談等の機会を通して、学年団と保護者のコミュニケーションを密にして、生徒理解を深めていく。	保護者会はコロナ禍のために中止した。夏休みの三者面談や家庭への電話連絡等必要に応じて保護者との連携を密にして生徒を指導できた。	3
2年	積極的に保護者と情報交換を行い、互いに話しやすい環境を整えていく。	三者面談や家庭連絡を密にすることで、三者連携を図った取り組みができた。	3
3年	学年通信を定期的に発行し、学校や学年活動の情報を積極的に発信することで、生徒や保護者との連携を深める。	発行した学年通信をホームページに更新するなど情報発信した。学年活動をブログ等で発信出来なかったことが課題である。	3